

【解答例】

問題Ⅰ

清はアヘン戦争やアロー戦争に敗れると、列強と種々の不平等条約を結んだ。同時期に太平天国の乱での混乱も生じ、漢人官僚によって、政治体制は変革せず西洋の技術を導入する洋務運動が始まった。しかし日清戦争で、同時期に近代化を進めた日本に敗れ、改革の限界が露呈した。そこで清の体制変革をも目指す戊戌の変法が行われたが、保守派の反発で失敗した。また日清戦争で各地に植民地を持つ列強の進出も本格化していた。これに対する危機感から、山東省を中心に義和団が「扶清滅洋」を掲げて蜂起した。清朝政府は義和団を支持し列強に宣戦布告したが、列強は8か国連合軍を組織し義和団は壊滅した。清は列強と北京議定書を結び、北京駐屯権を認めた。その後、光緒新政で立憲君主政を目指す改革が行われたが、民衆が反発し、辛亥革命によって滅亡した。

(350字)

問題Ⅱ

- 問1 小国の抗争を経て、諸国は邪馬台国の卑弥呼を女王として共立して政治連合を形成したが、その後も他の勢力との対立は続いた。
- 問2 5世紀には、朝鮮半島南部における政治情勢で外交的に有利な立場を得るために中国皇帝に朝貢して冊封され、その地域を含む支配権を認められようとした。7世紀以降には、中国皇帝の冊封を受けず、大陸の統一王朝と対等な国としてふるまおうとした。
- 問3 唐を中心とする東アジア世界のなかで、日本は唐に朝貢するものの冊封は受けずに交易を行った。独自の中華世界を築いていた日本は、新羅と渤海には朝貢を求め、新羅は大陸情勢に応じて日本の要求への対応を変化させたが、渤海は唐への脅威から臣下としてふるまった。

問題Ⅲ

- 問1 (a)－源義家
(b)－後三年合戦を平定し、東国に源氏の勢力基盤を築いた。
(c)－上皇
- 問2 (a)－とさみなと
(b)－青森県
(c)－本州と蝦夷ヶ島，大陸の品が出土し，日本海交易の拠点となった。
(d)－交流が盛んであり，交易のみならず互助関係にあった。
- 問3 名称－足利学校 (ア)－方言
- 問4 隋筆名－北越雪譜 作者名－鈴木牧之
宝暦・天明期の江戸の洒落本作家で，寛政の改革で処罰された。

問題Ⅳ

- 問1 商場(場所)
- 問2 場所請負制
アイヌ民族は松前藩に従属して自立した交易はできなくなり，漁場などで場所請負人となった和人商人に使役される存在となった。
- 問3 赤蝦夷風説考
開発を進めて長崎での輸出品だった俵物を獲得し，ロシアの南下を警戒しつつも最上徳内らを派遣して交易の可能性を探ろうとした。
- 問4 樺太は幕末期以来日露間で境界を定めず両国人雑居となっていたが，樺太・千島交換条約の締結によって全島がロシア領となった。
- 問5 A－北海道旧土人保護法 B－アイヌ文化振興法

問題Ⅴ

- 問1 A－平塚らいてう B－与謝野晶子 C－伊藤野枝
- 問2 市川は男女平等を訴え，婦人参政権の獲得を目指したが，戦時体制が進むと，同様の男女平等観から女性も戦争遂行に協力すべきと主張した。
- 問3 (1) 戦前は働き続け，戦後は結婚・出産で離職する者が多かった。
(2) 戦前の女性は女工としての労働や自営業などで家計を助けたが，戦後は男性の終身雇用などで収入が安定し，専業主婦となる者が増えた。